

横浜市立奈良中学校 令和8年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
・自ら学び、確かな学力を身につけよう。(知) ・違いを認め合い、思いやりの心をもとう。(徳) ・健やかな心と身体をつくろう。(体) ・社会の一員として自覚し、行動しよう。(公・開)	「主体的に学ぶ力」 「社会に適応する力」 「生きがいを見いだす力」

(2) 中期取組目標

中期取組目標
社会に貢献する一員として、自分らしさを発揮し、生きがいと誇りをもって、幸せに生きる人の育成を目指します。学力・学習状況調査、Y-P、学校評価等のデータを活用し、「夢・挑戦・共生」を意識させた教育活動を展開していきます。 ・「夢」(自分で考え、志や目標、やりたいことをもつ) ・「挑戦」(夢の実現に向けて、失敗を恐れず、勇気をもって挑戦し続ける、努力し続ける) ・「共生」(他者を認め、助け合いながら、より良い集団を創る) 生徒一人ひとりの状況や思いを傾聴し、受容と共感を大切にしながら、生徒理解に努めます。日頃から生徒の「良いところを認めて褒める」ことを実践し、自己肯定感を高めます。

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
授業改善	・教員同士の授業見学、振り返りの機会を増やし、授業力向上を目指します。 ・ICT 機器の活用を積極的に行い、「協働的な学び」の実践を目指します。 ・生徒が主体的、対話的で深い学びが行えるような学習指導の工夫をします。

2 令和7年度 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析

令和7年度の結果は、3年生(中2までの学習範囲)の学力は市平均をやや上回り、2年生(中1までの学習範囲)は市平均程度を、1年生(小学校の学習範囲)は市平均を上回る結果となった。学年があがるにつれ、学習能力や理解度が向上し学習習慣ができてきていると考えられる。学年の進行に伴って協働的な学習については高くなってきている傾向にあるが、自分自身で取り組むことに関しては深まりに課題が残る。

(2) 教科学習の状況

- 国語科:語句に関する理解は高いが、情報を活用する問題に対する理解が低い。図表と文章を関連づけて考えることや記述式の問いへの解答に課題が見られるため、今後の指導に取り入れていく必要がある。
- 社会科:自ら学習に取り組む態度を養い、基礎学力を定着させる必要がある。また、資料から社会的事象の特徴を読み取り、理解する力を育む必要がある。
- 数学科:確率・統計の単元は平均を上回るものが多かったが、平面図形・空間図形の単元を苦手としている生徒が多い。また、式の計算について方法やルールを理解する必要がある。
- 理科:ICT 機器を活用し、身近な事象をもとに科学的な知識を身につけていく。また、実験結果から自分の考えをことばで表現し、課題解決をしようとする意識を高めていく必要がある。
- 英語科:外国語に対する学習意識は高い。学年が上がるにつれ、「聞くこと」の理解度が上がってきている。読解力向上のためにも、今後も基礎学力の強化を目指した授業展開を行ってきたい。

(3)経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

学力調査・生活意識調査を比較して、「朝食を食べているか」「一日どのくらい読書をするか」の2つの設問に注目すると、学力調査の結果の上位層は朝食を食べている割合が高く、読書の時間が長い傾向にあることが分かった。朝・放課後の生活習慣や読書が学習調査の結果に反映していると考えられるため、今後は学校生活を通して日常の生活習慣の改善や朝読書の時間の充実する意識していきたい。

3 令和8年度 目標と具体的方策

令和8年度 目標

○全教科での基礎・基本の充実と、生徒の主体的な学びを促す指導の工夫を行う。

○ICT 機器を活用したわかりやすい授業の実践

(1)学校組織としての共通の取組(過年度からの継続)

○分かる授業・楽しい授業の確立

生徒に応じた個別の学習支援方法を計画した授業や、ICT 機器を活用して生徒の理解を深められるように取り組む。対話的な活動を重視した授業を継続し、**自律的な学習を調整しながら**、自分の考えを表現できる機会を設定する。

○教科指導の充実

学習の基本となる教科の充実を図るために、授業研究を通して「わかる授業」の内容や方法について共通理解を図る。学校外での研修などに積極的に参加し、指導方法の充実を図る。

○学習習慣の定着

学習習慣を身につけるだけでなく、自らの学習を振り返り、より質の高い学習を行えるように計画性をもって取り組む姿勢を育む。

(2)各教科等の取組について

国語	○小集団の意見交換を通して、豊かな表現力の向上を目指す。 ○継続した語彙力向上のための漢字練習を行う。
社会	○資料を丁寧に読み取り、社会的事象の特徴を考察することができるようにする。 ○学びあいの機会を増やし自ら学ぶ姿勢を身につけることで、基礎学力向上を目指す。
数学	○基本的な知識・技能の定着を目標にした授業を実践する。 ○ICT 機器など、多様な教材を活用した授業を積極的に行う。
理科	○1年次に TT(チームティーチング)、全学年で ICT 機器を活用し、基本の定着に生かす。 ○実験を通して基本的な技能を身につけ、結果をもとにした科学的な思考力を養う。
音楽	○表現活動の充実。歌唱、演奏、言語活動を含めた表現する楽しさ、大切さを感じ取れるような授業を展開する。 ○目標設定と振り返りの時間を取ることで、生徒一人一人が学習の目的を意識し主体的に取り組む姿勢を育てる。
美術	○机間指導を多く取り入れ、個々の課題に対応し、表現力の向上を目指す。 ○題材の工夫。見通しの持てる導入、ICTを効果的に活用した授業を展開する。
技術 家庭	○各授業でのゴール(目標)を明確にし、実生活とリンクするような授業を展開する。 ○実践的・体験的な課題解決型の学習を通して、よりよい生活の実現に向けた授業を展開する。
外国語 (英語)	○学び合い(ペア、グループ活動等)を継続し英語に触れる機会を増やし、理解力や表現力を育む。 ○AET の授業では、「聞く」「話す」活動を主に行い、コミュニケーション能力を育成する。また、英語に対して苦手意識をもった生徒への対応を丁寧に行う。
特別活動	○コミュニケーション能力を育み、よりよい人間関係を築かせるために行事の充実を図る。 ○話し合い活動では、相手の考えや思いを尊重し、協力して問題解決する態度を育てる。
総合的な 学習の時間	○キャリア学習・防災学習を通して、地域とのつながりを大切にしながら、設定した課題に対して自分たちに何ができるかを考えて表現する「課題探求学習」をすすめていく。
個別支援学級	○授業(教科・自立活動等)を通じて、個に応じた社会自立に向けた指導、支援を行う。 ○人とのコミュニケーションの場を多く提供し、豊かなコミュニケーションの仕方の指導、支援を行う。

